

(2) 新たな需要創出と収益性向上

現状と課題

- ◆ 全国有数のきのこ生産県ですが、生産量、生産者数は減少傾向にあります。(図3-1-3-1、3-1-3-2)

図3-1-3-1 本県産きのこ生産量の推移

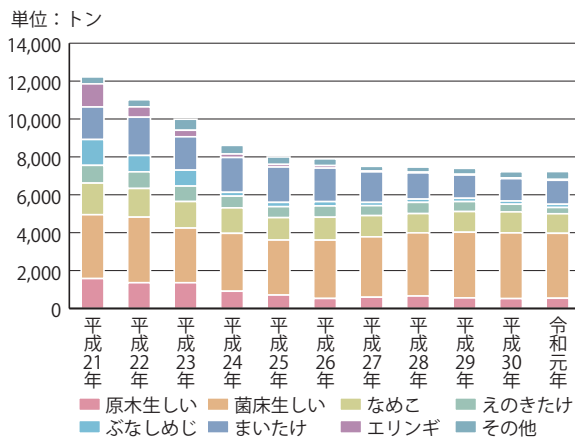
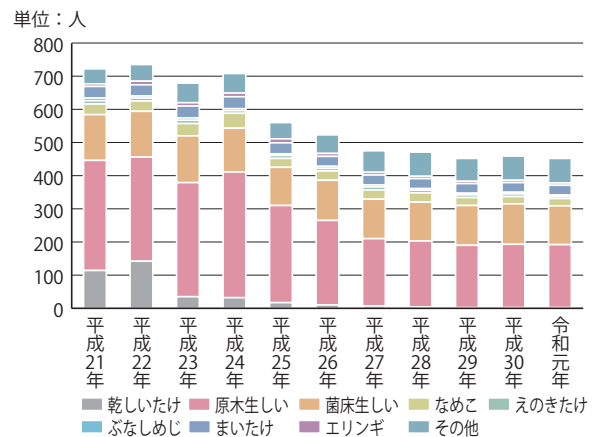


図3-1-3-2 本県きのこ生産者数の推移



出典：群馬県林業振興課業務資料

- ◆ 消費者ニーズに応じて、県内では多種多様な品目が生産されていますが、県産きのこならではのセールスポイントが不足しています。
- ◆ 県産きのこは、首都圏向けを中心に販売されていますが、販売ターゲットや出荷品質が一定でなく、市場単価が低い傾向にあります。
- ◆ 県内小売店の陳列量に占める県産きのこの割合が他県産より低く、県民の購入機会を逃しています。
- ◆ きのこと産業を維持・発展していくため、収益性の向上と新たな需要の創出により、儲かる産業へのステップアップが必要です。
- ◆ 原木栽培*の生産者数は高齢化等で減少していますが、菌床栽培*は法人経営の増加等により1生産者当たりの規模拡大が進み、地域雇用の創出に大きな役割を果たしています。
- ◆ 木炭の生産量は、生産者の高齢化等により、減少傾向にあります。

将来ビジョン

- ◆ 新たな需要の創出や収益性の向上により、中山間地域を支える産業として、地域の資源と資金の循環に貢献しています。
- ◆ 県民が県産きのこに愛着を持ち、里山資源の循環利用や二酸化炭素 (CO₂) 削減などの付加価値を理解して、県産きのこを積極的に購入しています。
- ◆ 製炭技術が伝承され、高品質の木炭が生産されています。

取組の方向性

- ◆ 県産資材の活用により、新たな需要を創出し、消費量を拡大させます。
- ◆ 効率的な生産体制を構築し、収益性を向上します。

具体的施策《重点取組》

（ぐんまッシュいきいきプロジェクトによる県産きのこの生産振興）

- ◆ 県産資材を活用した“純”県産きのこ「ぐんまッシュ」を県産きのこの理想像を象徴する新たなアイコン（シンボル）に設定し、新たな需要創出や収益性向上を図るための施策を展開し、産業の持続性を高めます。

（“つくる” 対策）

- ◆ 原木やおが粉の“純”県産率を高めるための安定供給体制を整備します。
- ◆ 県産資材の活用により、フードマイレージ*の低減、資源循環林の有効活用を図ります。
- ◆ きのこ生産の省力化、低コスト化、効率化等を図るための機械導入や施設整備、栽培管理・販売のデジタル化などを支援します。

（“うる” 対策）

- ◆ 県産きのこの単価の引き上げを図るため、消費者ニーズにマッチした流通・販売の取組を支援します。
- ◆ 県内小売店の陳列量に占める県産きのこの割合をより高めるための流通・販売の取組を支援します。

（“たべる” 対策）

- ◆ “純”県産の安心感を最大のセールスポイントに消費拡大を図ります。
- ◆ 産学官民が一体となり、「ぐんまッシュ」が持つ地域固有の価値を高め、県民を中心とした愛着を醸成するPRを行います。
- ◆ ニューノーマルに対応した、肉食向け料理レシピや、きのこの持つ多様な機能性をコンテンツとしたきのこの消費拡大の取組を実施します。



きのこ料理コンクール入賞作品

- ◆ 児童生徒やその家庭におけるきのこの消費拡大を図るため、学校給食への食材提供やイメージアップの取組を支援します。

(きのこ産業従事者の確保)

- ◆ きのこ生産の後継者を育成するとともに、新規・他業種からの参入者を受け入れるための取組を支援します。
- ◆ 生産者ニーズに応じた栽培技術や生産支援システムなどの研究開発に取り組みます。

(木炭振興対策)

- ◆ 木炭・竹炭の新たな用途を開発し、利用拡大に努めます。
- ◆ 木炭の製造技術を伝承する取組を推進します。

“純” 県産きのこ「ぐんまッシュ」とは

県産木材を原材料とするきのこ原木やおが粉を使用して、県内で生まれ育ったきのこ。将来的には、栄養源などの生産資材についても県産品の使用率を高め、純度と付加価値の向上を目指します。

数値目標 【きのこ産業等の再生】		
指 標 (★重要指標)	現状値	目標値
★きのこ生産産出額 (千万円/年)	516	600
きのこ生産量 (トン/年)	7,226	8,000
原木栽培における県産資材調達率 (%)	76	80